第72号

会報　名音教

発　　行
令和３年１０月５日
名古屋市音楽教育研究会
広　報　部

令和３年度　　研究主題

響き合う　心と音楽
ーなかまとかかわり合い　豊かな音楽表現を目指してー

音楽の授業が目指しているもの

名古屋市音楽教育研究会会長
高田小学校長　川上 季予子

長引くコロナ禍で、総会及び研究大会の開催方法の変更を余儀なくされています。予想もしなかった今日の状況に、音楽の授業や文化的行事は様々な制約を受け、音楽教育への新たな課題や発想をもたらしたように感じます。そのような中でも、音楽の学びの向上に日々取り組んでみえる先生方の真摯な姿勢に感謝申し上げます。

さて、令和３年度は中学校で新学習指導要領が全面実施となり、一人一台タブレットも配備され、子どもたちが未来社会を切り拓いていくための資質・能力を確実に育成することが求められています。音楽科においても「子どもがどのような力を身に付けたのか」という学習の成果を見極めた上で、授業改善を図っていくことが不可欠です。

音楽教育研究会では、これまでも子どもたちが主体的・対話的に学び、学びの深まりを実感し、音楽活動をする喜びを味わう姿を求めてきました。楽曲に興味関心をもち、試行錯誤しながら自己の学習活動を振り返り、次につなげる主体的な学びを実現していくこと。他者と協働しながら音楽表現をつくり上げていく過程で、実際に音や音楽で確認しながら学習を進めていく対話的な学びを実現していくこと。表現及び鑑賞の活動において、音楽的な見方・考え方を働かせる深い学びを実現していくこと。これらのことを念頭に、よりよい授業を考えていくことが大切です。

私は、子どもたちがたくましく生きていくために、日々の成長の活力として、音楽は最も相応しい教科の一つであると考えています。仲間とともに音楽を味わい、音楽で心を癒やし、人と人との心を結ぶことができる音楽の授業を目指していきたいと思います。

響き合う　心と音楽
なかまとかかわり合い　豊かな音楽表現を目指して

名古屋市音楽教育研究会副会長
名古屋市音楽研究会委員長
上社小学校　斉藤 玲子

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で、音楽科にとって激動の年となりました。多くの制限を求められる中、できないことに目を向けるのではなく、「何ができるのか」に重きを置き、コロナ禍での音楽科授業について考え続けました。集まることが難しい中、環境を工夫し、情報交換の場を設定したり、時には、オンライン開催を検討したりして、工夫を重ねながら、学び続けてきました。歌うことができないのならば、「響きのあるハミングで歌詞を思い浮かべながら歌う」「鍵盤ハーモニカの代わりに、学習用ＰＣのキューブ機能を活用し、タブレット上で鍵盤楽器の演奏を試してみる」「デジタル教科書に含まれる『おとづくり』を活用し、音楽づくりに挑戦してみる」といったように、新しい生活様式の中、できることを見つめ直し、取り組んできました。

そのような活動を地道に続け、自らの音楽への思いを、言葉や音・音楽で仲間に伝えたり、交流したりして関わり合い、主体的に音楽を学ぶ喜びを味わうことのできる活動を重視した研究を進め、音楽的な感動体験につなげてきました。現在も、コロナ禍のため、今まで当たり前に行ってきたことが、容易に行うことのできない状況は続いており、音楽の授業をする上で、配慮や工夫が求められています。

そこで、今年度も研究主題「響き合う　心と音楽」のもと、サブテーマを「なかまとかかわり合い　豊かな音楽表現を目指して」とし、音楽のよさを感じ取り、自分の思いを仲間と共有して試行錯誤しながら音楽表現を高めていくことで、音楽による感動体験の実現を目指していきます。豊かな音楽表現につなげるために、思いを音楽表現に生かすには、「どのような関わらせ方が有効なのか」また、「ＩＣＴを活用した音楽の授業の在り方」について、追究していきたいと思います。

愛知県小中学校音楽教育研究大会　名古屋大会

８月２０日（金）オンライン

【第１部　研究発表】

（１）名古屋市立福春小学校　笹木 美幸 先生
「表現する喜びを味わう児童の育成」
ー実感して得た知識・技能を生かした音楽づくりを通してー

音遊びでは、実際に音に出すことで実感を伴って知識・技能を身に付けることが必要です。音を音楽にしていく活動では、考えを視覚化し試行錯誤できるよう工夫された「ミュージックシート」の活用が有効です。

（２）名古屋市立柴田小学校　山口 泰幸 先生
「思いを具体的に表現することのできる児童の育成」
ーＩＣＴを活用した協働的な学習を通してー

児童が思いをもち、より深めて表現することができる協働的な学習について実践研究をしました。全ての児童が表現を工夫することができるＩＣＴ機器の有効な活用、思いを視覚化して深めるマトリックスチャートの活用等、有効であることが分かりました。

【第２部　講演会】

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 志民 一成 氏
「資質・能力の育成に向けた音楽科の授業づくり」

音楽科の目標や育成すべき資質・能力や評価等について、ご講演いただきました。

主体的・対話的で深い学びを実現する授業の改善の視点は、資質・能力の育成のための手段です。学習指導要領では、学ぶ子どもの視点に立ち、三つの柱で整理されました。

対話的な学びの際には、「対話しているか」ではなく、「対話的な学びとなっているか」を常に留意することが求められます。

主体的に学習に取り組む態度を育成する際に、学習の調整に向けた取り組みのプロセスには児童一人一人の特性があり、子どもたちが自ら様々に学び方を工夫していく中で、自分に合った学習の調整の仕方を見い出せるようにすることが大切です。

「令和の日本型学校教育」の姿として、個別最適な学びと協働的な学び充実させ、学習指導要領の着実な実施をする必要があります。

音楽関係行事

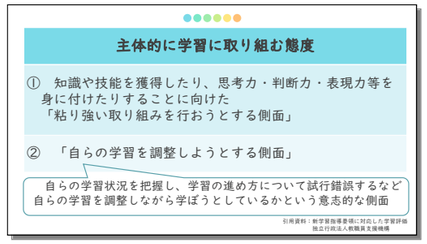
８月２０日（金）	夏季研修会　愛知県小中学校音楽教育研究大会　名古屋大会	オンライン開催
~~８月２５日（水）~~	~~名古屋市小学校バンド演奏会~~	~~名古屋市公会堂~~（中止）
２月１９日（土）	名古屋市小中学校合唱フェスティバル	名古屋大学豊田講堂
２月中旬	冬季研修会	詳細については未定

令和3年度　名古屋市教育研究員

守山区　本地丘小学校　難波 友理子 先生
テーマ：表現する楽しさや喜びを味わう児童の育成
ー伝え合う学習活動を通してー

≪裏面もご覧ください≫

授業研究部の取り組み

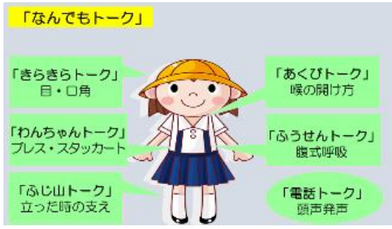


「音楽科の評価について」

音楽科指導員　岩塚小　鈴木 好美 先生

音楽科の評価の中でも、「主体的に学習に取り組む態度」を中心にお話いただきました。「主体的に学習に取り組む態度」は、 ①前学習指導要領の「関心・意欲・態度」が単に移行したものではないこと　②練習の量や授業態度だけで評価するのではなく、児童生徒が学習方法を工夫し、次に生かそうとする様子を教師が見取ること　③その様子を踏まえ、教師が指導を工夫したり、支えていったりすること　この３点に留意することだという内容を、具体的な評価例を交えながら分かりやすく教えていただきました。

「今こそやろう　授業のアイデア」

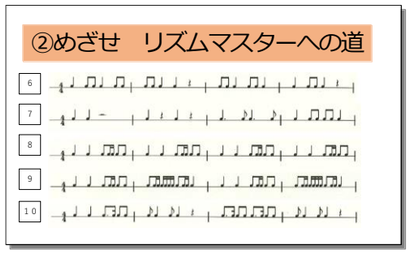


１　栄小　相坂 晴美　先生

４年生を対象に行った、表情、姿勢や発声に気を付けて話すことで、思い切り歌唱ができない状況下でもできる歌声づくり「なんでもトーク」について紹介していただきました。

例えば「ふうせんトーク」では、腹式呼吸を意識するため、お腹に手を当てながら友達と会話をし、「きらきらトーク」では、表情を意識するため、手鏡を見て目を見開いたり口角を上げたりして話すという実践内容でした。「なんでもトーク」を行うことで、体のどの部分を意識すると歌声が改善するのかが分かりました。

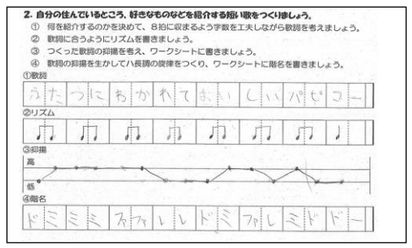
２　柴田小　山口 泰幸　先生



６年生を対象に行った、全員→児童①→全員→児童②といった順番で行う手拍子のリズムリレーや、グループの中で、一人ずつ短い旋律を鉄琴でリレー奏する常時活動を紹介していただきました。

タブレット端末を活用した「めざせリズムマスターへの道」の実践では、楽譜作成ソフトに教師が課題のリズムを入力し再生することで、児童がリズム譜を見ながら実際のリズムを音で確かめることができ、無理なくリズムに慣れる活動が可能となることが分かりました。

３　萩山中　亀丸 美緒　先生



コロナの状況下でもできる創作の授業について紹介していただきました。①「キラキラ星」をアレンジする実践　②テーマに合ったリズムや強弱などを考えてボディパーカッションで表現する実践　③「お菓子のＣＭソングづくり」の実践を紹介していただきました。段階を踏みながら、創作活動をすることで、生徒が主体的に活動に取り組めるようになることや、そのために、ワークシートの工夫が必要なことが分かりました。

「情報交換会」

ＺＯＯＭのブレイクアウトルーム機能を使い、小学校低学年・中学年・高学年のグループに分かれて、音楽科の授業で困っていること、音楽の行事や部活動についての各学校での取り組みについて、話し合いました。悩みを共有するだけでなく、解決方法を伝え合うことができ、時間いっぱいまで話が盛り上がりました。

♪　３人の先生方の実践について詳しく知りたい方は、ぜひ各先生にお問い合わせください。今後も、授業研究部会へのたくさんのご参加をお待ちしています。

音楽科指導員　岩塚小学校　鈴木 好美 先生に

with コロナ「音楽の授業における ICT 活用」

についてお聞きしました！

習指導要領の改訂にともない、情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータ等の情報手段を適切に活用した学習活動を充実することや、個に応じた指導の充実を図る際に、情報手段を活用することが求められています。

ここでは、with コロナ「音楽の授業における ICT 活用」についてご紹介します。

A	一斉学習　　挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子どもたちの興味・関心を高めます。
B	個別学習　　デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや自分に合った進度で学習することが容易となります。
C	協働学習　　タブレット PC や黒板等を活用し、教室内の授業・他地域の学校との交流学習において子ども同士による意見交換・発表などができます。

【参考文献「学びのイノベーション」実践研究報告書独立行政法人教職員支援機構】

♪　演奏（歌唱・器楽）の録画

アプリのインストールも Web サイトへの接続も一切必要なく、タブレット内蔵のカメラで録画するだけなので、誰でも簡単にできます。合唱や合奏の授業での全体練習、パート練習時など、授業内で活用できる場面は様々です。録音と違って、演奏時の姿勢を確認できるのもポイントです。録画したものを拡大提示装置に投影して改善点を話し合う活動にも有効です。

良く使うカメラをここに載せておくと便利です

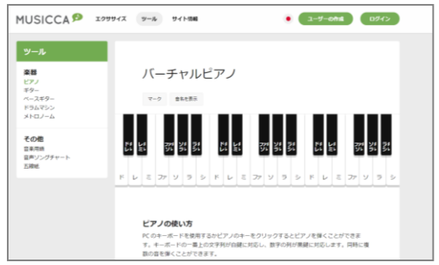
ここからカメラを起動します

♪　授業支援アプリ　ロイロノート・スクール

♪　キューブきっず ver.6　えんそう

♪　バーチャルピアノ

PC のキーボードを使用するかピアノのキーをクリックすると、ピアノを弾くことができます。キーボードの一番上の文字列が白鍵に対応し、数字の列が黒鍵に対応します。同時に複数の音を弾くことができます。https://www.musicca.com/jp/piano



ICT 活用の留意点

- ICT と非 ICT の選択と組み合わせを検討する
- 日常的な活用と効果的な活用の両面を見据える
- ICT の活用助教を学校全体で情報共有する

編集後記

コロナウィルス感染症に係る影響により、音楽活動は様々な制約の中、続けられています。しかしながら、子どもたちが安心して楽しく学ぶことができるよう、様々な工夫が見られる実践が増えてきました。

今後も、子どもたちへの教育の充実を図るため、情報共有や意見交換をする機会となるよう会報の内容を充実させていきたいと思います。お忙しい中、多くの皆様方に原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。

第７３号は　３月　８日（火）の発行予定です。

内容に関するお問い合わせは、名音教広報部　万場小　長崎 祐嗣まで、お知らせください。